

策定の進め方について

令和2年6月

目次

1	計画の趣旨	1
2	計画策定の視点	2
3	次なるステップに向けた計画課題	3
4	目標設定の具体的検討例	4
5	アンケート調査の実施	5
6	現行計画の検証方法	6
7	策定の体制	7
8	策定スケジュール改訂案	8

湖 南 市

1. 計画の趣旨

湖南省では平成 18 年 6 月に「障がいのある人が地域でいきいきと生活できるための自立支援に関する湖南省条例」を制定し、湖南省発達支援システムの推進を核として、障がい者一人ひとりの能力、適性、発達段階および社会環境に応じた施策を横断的かつ計画的に推進してきました。

平成 21 年 3 月には、湖南省として初めての障がい者計画となる「障がい者の自立支援に関する基本計画」を策定し、その後平成 23 年度、26 年度、29 年度と 3 年ごとに中間見直しを行うとともに平成 29 年度には第 5 期障がい福祉計画・第 1 期障がい児福祉計画を策定し、「だれもが自分らしく、ともに生きるまち湖南省」の実現をめざして、市民、事業者、行政が協働して福祉のまちづくりに取り組んでいます。

【湖南省の障がい者福祉をとりまく特徴】

◇福祉を大切にするまちです

我が国を代表する福祉の実践者である糸賀一雄先生の思想が根付き、ノーマライゼーションと発達保障の理念を大切にするまちです。

◇全国に先駆けた発達支援システムを進化させ続けています

乳幼児期から学童期、就労期まで、保健・福祉・医療・教育および就労の関係機関の横の連携と、個別の指導計画による縦の連携による支援を提供する発達支援システムを、関係者の努力により進化させ続けています。

◇障がい者就労情報センターなど先進的な就労支援に取り組んでいます

「障がい者就労情報センター」や「チャンスワークこなん」を設置するなど、障がい者の働きたい気持ちにこたえるための取組を進めています。

◇障がい者の自己実現・自己表現の場を広めています

信楽での伝統を活かし、アール・ブリュットの展開など、障がい者ならではの自己実現・自己表現の場の充実に取り組んでいます。

2. 計画策定の視点

今回の計画策定については、湖南省の障がい者福祉をとりまく特徴と国、県の動向をふまえ、次のような視点にたって取り組みます。

1 福祉先進地としてのさらなる深化

湖南省は発達支援システムの先駆けとなった先進地であり、糸賀一雄氏の設立した近江学園と福祉思想に育まれ、その志を受け継いだ多くの実践者がいるまちです。

地域福祉計画のもと、一人ももらさない支援を目指して関係者各位が日々連携に努めています。

複合的な課題・ニーズを抱えた家庭等に対する包括的な支援の連携が求められるなか、一人ももらさない支援へ向けて行政・事業者・市民・地域が協働で取り組む計画づくりをめざします。

2 市民の意識や役割の重視

差別の禁止や地域共生社会の実現を目指すうえで、市民の意識や役割の重要性が高まっています。

全世代に対する包括的な支援を目指すうえでも、行政や事業者、関係者だけでなく、市民や地域の役割が重要です。

市民の意識の把握に努め、成果指標としても活用するとともに、市民への計画の浸透・啓発を図るなど、市民が我が事として読める計画づくりをめざします。

3 横断的な進行管理につながる計画づくり

福祉分野だけでも本計画のほか、地域福祉計画、子ども・子育て支援事業計画、高齢者福祉計画・介護保険事業計画等各種の計画を策定し、それぞれ個別に進行管理している現状です。

進行管理も包括的に実施するほうが効果的、効率的であり、本計画策定においては、これらの関連計画の進行管理とも横断的につながるものとなる計画づくりをめざします。

3 次なるステップに向けた計画課題

発達支援と 包括的支援の深化

発達支援システムの実績を活かし、一人ももらさない支援体制を築くため、子ども、障がい者、高齢者、生活困窮、ひきこもりなど複合的な課題・ニーズを抱えた家庭等に対して相談や情報提供が届くような包括的支援へ向けた連携が必要です。

人材の育成と確保

福祉を動かすのは「人」の力です。事業者における人材、地域における人材、行政における人材等、各領域で必要な人材の育成と確保が必要です。
このため、計画づくりにおいても、これらの人材を湖南市に惹きつけ、育成するような計画づくりが必要です。

地域共生社会の実現

「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる「地域共生社会」の実現が目指されています。
湖南市ではすでに第1次地域福祉計画からこの理念を先取りしており、本計画においてもこのような取組をさらに推進することを念頭において策定する必要があります。

国の第4次障害者 基本計画との整合

湖南市では平成29年度の見直し計画策定においてすでに国の第4次障害者基本計画との整合が一定図られています。今回の計画づくりでは成果指標の設定等においていっそうの整合を図る必要があります。

4 目標設定の具体的検討例

平成 29 年度策定の中間見直し計画で施策ごとに指標を設定しましたが、基本目標をゴールとした施策の評価指標として、より効果的な指標とするため、次のような方向で検討します。

基本目標		施策		中間見直し指標	目標追加の具体的検討例
基本目標 1	一人ひとりの発達・成長を応援する	1	発達支援システムの充実	湖南省発達支援室での面談件数	市民における発達支援システムの認知度を追加（アンケート調査）
		2	支援が必要な子どもの早期発見・対応	就学前の子どもが専門機関につながっている割合	必要な支援からもれる子ども・若者の解消
		3	教育・保育の充実	中学3年生で、ことばの教室・ふれあい教育相談室に通級および特別支援学級に在籍している生徒の中で、個別的教育支援計画（個別移行計画）を作成している割合	インクルーシブ教育の実施率
		4	放課後等児童対策の充実	放課後等デイサービス日利用者数	多様な場としてのサロン、あったかホームも追加
基本目標 2	「輝きたい」「意欲に働きたい」を応援する	5	社会参加の促進	障がい者スポーツ大会参加者	文化活動、アールブリュットの視点も追加
		6	就労の促進	障がいのある人の一般就労への移行者数	就労継続支援 A 型、B 型も追加
基本目標 3	毎日の生活を支える	7	相談と情報提供の充実	計画相談事業所数	相談や情報からもれる人の解消の視点
		8	自立支援給付等による日常生活の支援	サービス等利用計画の作成件数	サービスを受けられなかったケースの有無を追加
		9	経済的負担の軽減	特別障害者手当等の受給者数	経済的理由で制度を利用できなかったケースの有無を追加
		10	住まいの確保	グループホームの利用者数	はばひろい観点から住宅改修戸数を追加
		11	保健・医療の確保	自立支援医療（更生医療、育成医療、精神通院医療）の受給者数	障がい者対応できる市内医療機関の数を追加
基本目標 4	共生する地域をつくる	12	人権文化の醸成と権利の養護	発達障がいについて理解を深める研修会参加者数	差別がないと感じる障がい者の割合を追加（アンケート調査）
		13	ふれあい・交流の充実	湖南省ボランティアセンター登録の障がい者支援ボランティアグループの活動件数	近所づきあいが良好と感じる障がい者の割合を追加（アンケート調査）
		14	コミュニケーション支援の充実	手話奉仕員養成講座（レベルアップ編）修了者数	他のコミュニケーション手段、ボランティアの追加
		15	移動の確保	障がい者自動車燃料費・福祉タクシー運賃助成券交付者数	同行援護ヘルパー、ガイドヘルパーの利用者数を追加
		16	災害への備え	避難行動要支援者名簿登録率	障がい者を含めた全員参加の避難訓練実施地区を追加

5 アンケート調査の実施

平成 28 年 4 月から障害者差別解消法が施行され、また国の障害者基本計画（第 4 次）においては「一人ひとりの命の重さは障害の有無によって少しも変わることはない」という当たり前の価値観の国民全体での共有を目指すとしており、これからは、社会全体で障害について考え、取り組んでいくことが求められます。

そのため、当事者に対するニーズ調査に加えて啓発にもつながる一般市民向けのアンケート調査を実施します。

区 分	調査対象	調査手法	配布数
ニーズ調査	18 歳未満（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者）	保護者へのアンケート	2,100 人程度 （身体障害者は抽出）
	18 歳以上（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者）	本人と保護者へのアンケート	
アンケート調査	当事者団体、保護者会、障害福祉サービス事業者等	ヒアリング調査	必要件数
	一般市民	本人へのアンケート	1,000 人程度

【ニーズ調査】

障害者とその家族のニーズは、通学・進学・進路や就労などの面で年齢層で異なっており、ライフステージに応じたニーズの変化に着目することが重要です。

当事者へのニーズ調査は年齢層別等で実施、発達障害についても実施し、課題の把握に努めます。

【団体ヒアリング調査】

主な関係団体や事業者に対しては、具体的な声を聞くためアンケート調査を実施します。

【アンケート調査方法】

- ヒアリングシートを配布し、記入いただき、回答結果を分析しまとめる。

【アンケート調査事項】

- 各団体・事業所の概要
- 各団体・事業所の活動・事業方針
- その上での課題（人材、施設、資金）
- 現場で聞く障害者・家族の声
- 今後の障害者施策に望むこと、その他自由意見

6 現行計画の検証方法

現行計画の検証については、「障害者基本法」に基づく『障がい者計画』と、「障害者総合支援法」に基づく『障がい福祉計画』、「児童福祉法」に基づく『障がい児福祉計画』について、それぞれの位置づけに即した検証を行います。

障がい者計画の検証方法

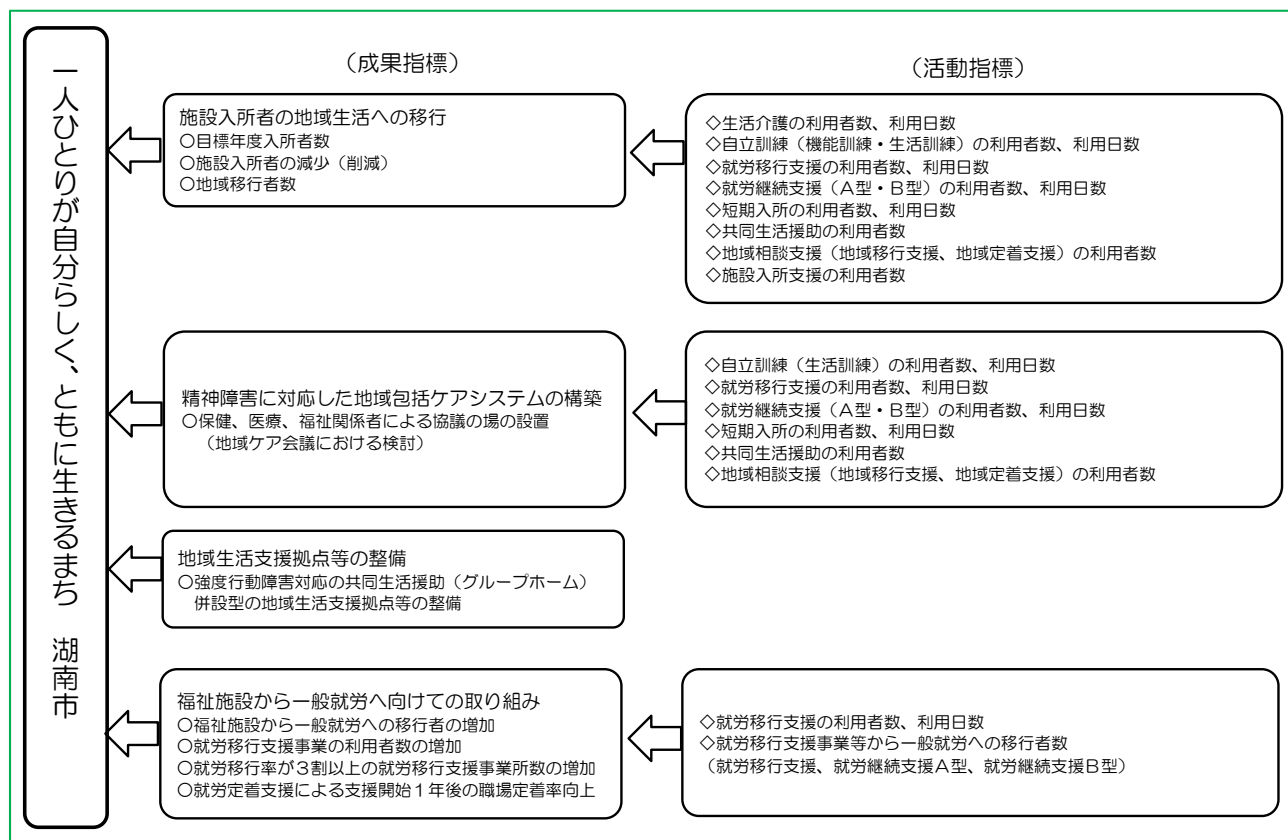
障がい者計画は、検証の対象となる施策が市内各部局に広くまたがることから、担当部局へのヒアリングが必要であり、そのための検証シートの作成・記入を行い、結果を集約します。

PDCAマネジメントサイクルの一環として、各担当ごとに実績に関する数値的な評価を行い、「なぜ計画の実行ができていないのか、どうすればできるのか」まで踏み込んだ内容とします。

障がい福祉計画・障がい児福祉計画の検証方法

障がい福祉計画及び障がい児福祉計画は、主に障がい福祉部局の所管するサービスを対象としており、PDCAマネジメントサイクルのもとに成果指標と活動指標の関係をふまえて、評価・検証します。

湖南省第5期障がい福祉計画における成果指標と活動指標の関係



7 策定の体制

これまでの障がい者計画・障がい福祉計画の策定と同様、障がい者団体等のヒアリング、甲賀地域障害児・者サービス調整会議、湖南市障がい者施策推進協議会からの意見・提言等、市民や関係者の声をていねいに聞き、計画に反映していきます。

策定委員会では、現行計画の達成状況の点検・評価についても行い、計画に反映していくことを検討します。

団体ヒアリング

湖南市障がい児者団体連絡協議会
湖南市身体障害者更生会
湖南市手をつなぐ親の会
湖南市視覚障害者福祉協会
湖南市聴覚障害者福祉協会
湖南市ことばの教室親の会
甲賀地域精神障害者家族会「のぞみ会」など

甲賀地域障害児・者 サービス調整会議

湖南市障がい者施策推進協議会

意見・提言

策定委員会

現行計画の点検・評価



手づくりの計画づくり

8 策定スケジュール改訂案

令和元年～2年度		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		ニーズ調査・現状分析・課題抽出						計画素案作成			計画の確定			
市民・団体・事業所参加	策定委員会				第1回 策定方針 スケジュールについて アンケート調査について		第2回 アンケート結果 団体ヒアリング結果		第3回 今後の取組方向 障がい者計画 骨子案	第4回 障がい者計画 素案 障がい福祉計画 素案		第5回 パブリックコメント案		第6回 計画最終案
	アンケート調査	調査設計			調査実施	集計分析								
	関係団体・協議会等				調査設計	団体ヒアリング調査	甲賀地域障害児・者サービス調整会議からの提言					湖南市障がい者施策推進協議会		
	パブリックコメント												パブリックコメントの実施	
計画	障がい者計画	調査設計			現状把握調査		計画骨子案		計画素案		パブリックコメント案	パブリックコメント案の確定	計画案のF B	編集・印刷
	障がい福祉計画	調査設計			現状把握調査				計画素案		パブリックコメント案	パブリックコメント案の確定	計画案のF B	編集・印刷